



No.92

さいばい ニュース

(財)神奈川県栽培漁業協会

発行所 〒238-0237 神奈川県三浦市三崎町 城ヶ島養老子
☎ 046(882)6980
FAX 046(881)2233

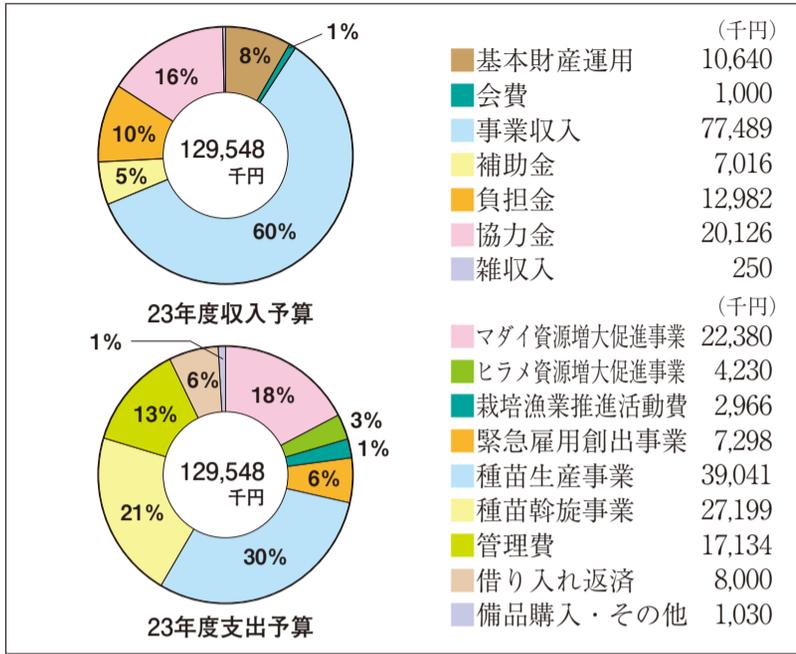
平成23年度予算・事業

補助金収入が大幅に減少し経費見直しへ 今年度、公益財団法人への移行を目指す

平成二十三年度予算が三月二十四日の評議員会・理事会で決まりました。今年度もマダイ、アワビ、クロダイ、マコガレイの種苗生産を行い、東京湾並びに相模湾に放流し、漁業協同組合をはじめとする水産団体への種苗供給を行います。

当協会は昭和六十一年に「栽培漁業に関する事業を行うことにより、水産資源の維持増大を図り、漁業の振興と県民生活の向上に寄与する」とを目的に設立され、今年で二十五年を迎えることになりました。当協会では、今年度を目標に公益財団法人へ移行認可が受けられるように申請手続きを進めています。認可後は、新たに公益財団法人として事業

を継続し、漁業者と一体となつて栽培漁業の推進に努めてまいります。今年度もマダイ、アワビ、クロダイ、マコガレイの種苗生産を行い、東京湾並びに相模湾に放流し、漁業協同組合をはじめとする水産団体への種苗供給を行います。



平成23年度予算

また、昨年に引き続き緊急雇用創出事業を受け稚魚放流体験イベント等に参加し、雇用を増やす事業を実施し、その一方で、徹底した経費の見直しを行い、効率的な協会運営に努めます。具体的には、従来の全長七センチのマダイ種苗を、養殖用に限らせ

イ種苗を東京湾、相模湾へ百万尾を放流することを目指していましたが、補助金等の減少により全長六センチ以上の種苗七十万尾の放流を目標とします。また、ヒラメ種苗は従来の、無償放流で全長六センチを十センチと各漁業協同組合や財団法人に有償で購入していただき県下沿岸に放流してきました。平成二十三年度のヒラメ無償放流は、「太平洋南海域栽培漁業推進協議会」の予算二百四十万円分と漁業者負担金の一部を充てたほぼ五万前後の尾数を放流します。

また、マダイの釣獲状況のモニタリングを遊漁船標準船に報償費をお支払いしてお願ひしていただきましたが、引き続きボランティアで記録していただくことにしました。今後とも種苗放流を継続していくためには、漁業者、漁業協同組合、遊漁船業者、釣り人からの協力が是非必要です。なにとぞ、補助金がなくなつていく中で、強力なご支援を栽培漁業協会に賜いますようお願いいたします。

事業名	種苗名(サイズ)	23年度(計画)	22年度(実績)
種苗生産	アワビ (5mm)	30,000個	30,000個
	〃 (25mm)	400,000個	313,100個
	〃 (30mm)	30,000個	28,500個
	サザエ (20mm)	250,000個	210,650個
	マダイ (70mm)	90,000尾	63,400尾
	クロダイ (60mm)	90,000尾	87,300尾
種苗供給	マコガレイ (40mm)	72,000尾	71,450尾
	ヒラメ (60mm)	120,000尾	97,000尾
	メバル (60mm)	50,000尾	26,500尾
	カサゴ (60mm)	120,000尾	129,750尾
	クロソイ (50mm)	0尾	7,500尾
	トラフグ (50mm)	20,000尾	22,150尾
	カワハギ (50mm)	10,000尾	13,000尾

23年度種苗生産・放流計画

三月十一日、宮城県沖でのM9.0の地震による大津波で、多数の死者・行方不明者が出て、被災された何十万人の方々が大変な生活を余儀なくされています。謹んでお悔やみとお見舞いを申し上げます。

神奈川県栽培漁業協会では、



主要道路を塞いだ漁船

潮騒

三月十一日に発生した東日本大震災から北海道から神奈川県に至る広い地域に被害を与えました。特に岩手県から福島県にかけての惨状は目を覆いたくなるほどのひどいものでした。全国で亡くなった人、行方不明の人を合わせると、四月三十日現在で二万七千人近くに達し、避難している人は十三万人近い数になっています。東北から関東に至る漁港・漁船・漁村・水産流通施設が軒並み壊滅状態で、各県の栽培漁業施設が全壊し、福島県では栽培漁業協会の職員六名の方々が現在、行方不明となっています。三崎でも津波を警戒し、一旦、城ヶ島大橋のたもとの高地まで職員は避難しました。神奈川県においても、ワカメ養殖施設などが被害を受け、大震災以降、魚価が異常に安値で取引され、また、遊漁船には釣り人が来ない深刻な状況が続いています。さらに水産物の放射能濃度の検査を行なわずに得ない状況にあります。▼一日も早く、普段の状況に回復することを祈っています。

計画停電による種苗生産への障害

海水を給水しているポンプが停止しました。給水が止まると酸素不足で死亡する恐れが出てきたので、飼育池に空気を送るプロワーを動かすため非常用発電機を稼働しました。ところが、時間がたつても復電の情報を得ることができず、発電機の燃料のガソリンと軽油が足りる心配になってきました。停電から十一時間後の十二日午前零時五十分分に電気が来て、ポンプを動かすことができました。翌日から計画停電が五日間ありアワビ、マコガレイ等の種苗を何十万と飼育していますから給

水がその間停止することになり、酸素不足で斃死してしまうこと防ぐため、空気を送ることに職員が必至で対応しました。非常用発電機の燃料がガソリンスタンドに行っても入手できず、トラックや船外機の燃料タンクから軽油やガソリンを移し、何とか乗り切りましたが、あの状態が続いたら、飼育していた生物は全滅していたと思います。想定外の停電時間ですが、普段は電気で海水をポンプでくみ上げて様々な生き物の種苗を大量に飼育している栽培漁業協会の施設の弱点が浮きだされたと思います。今夏、計画停電が予想されている中、なんとか停電がないように祈る思いでいます。

平成二十二年収支計算書

芳金の年々減少、アワビ生産不調も響く

平成二十二年年度の財団法人神奈川県栽培漁業協会の決算を報告します。詳しい報告はホームページに掲載していますので、そちらをご覧ください。決算報告書は、貸借対照表、正味財産増減計算書、収支計算書から構成されています。そのうちの収支計算書を説明します。

平成二十二年年度の事業活動収入の総額は一億三千七百五十二万三千四百二十円でした。その内訳は、基本財産運用収入が一千九十六万一千三百七十三円、会費収入が八十七万一千円、収入が八十七万一千円、種苗生産事業と種苗施設事業を合わせた事業収入が七千七百六十五万三千三百十三円、補助金等収入は、千五百八万二千六百二十円、漁業者等負担金と漁業協同組合負担金を合わせた負担金収入が千二百九十八万一千九百三十円、遊漁船業者協力金、募金箱、マダイ協力金等合わせた協力金等収入が千六百九十四万一千九百七十四円、雑収入が四十七万九千五百五十五円でした。事業活動支出の総額は、一億三千六百六十九万五千二百二十円でした。

事業支出の内訳は、マダイ資源増大促進事業が二千四百八十八万二千三百円、ヒラメ資源増大促進事業が四百六十七万二千三百三十一円、栽培漁業推進活動事業が四百七十八万六千七百六十五円、資源回復等対策事業が三百六十五万五千六百二十一円、雇用創出事業が六百五十六万六千九百四十四円、種苗放流事業が二百八十六万二千五百四十四円、種苗生産事業が五千三百三十七万一千四百五十七円、種苗幹旋事業が二千二百七十七万九千五百六十八円、管理費が八十九万一千二百二十七円でした。

事業活動収支差額は二百五十五万五千五百五十五円のマイナスでした。前期繰越収支差額が四百九十八万九千二百六十六円ありましたので、次期繰り越し収支差額は七百七十七万二千八百十六円となりました。

平成二十二年年度の収支で特徴的な事項は、県内

冷海水装置・選別装置の導入に尽力し、さらに、小田原港の朝市の開催、JA直販所での水産物直販でも現場で指揮を執っています。

そして今年三月に東日本大震災が発生すると、高橋征人組合長らの指示のもと、他に先駆けて被災地支援の義捐金集めに奔走するなどの活動も行っていきます。

出口さんはこれまでの業績が認められ、漁船保険業務で水産庁長官、優良産業労働者として小田原市長から表彰され、組合金融業務推進に貢献したとして農林中央金庫・全漁連から感謝状を受けています。

小田原市漁協の出口理事兼参事 漁協運動功労者表彰受ける

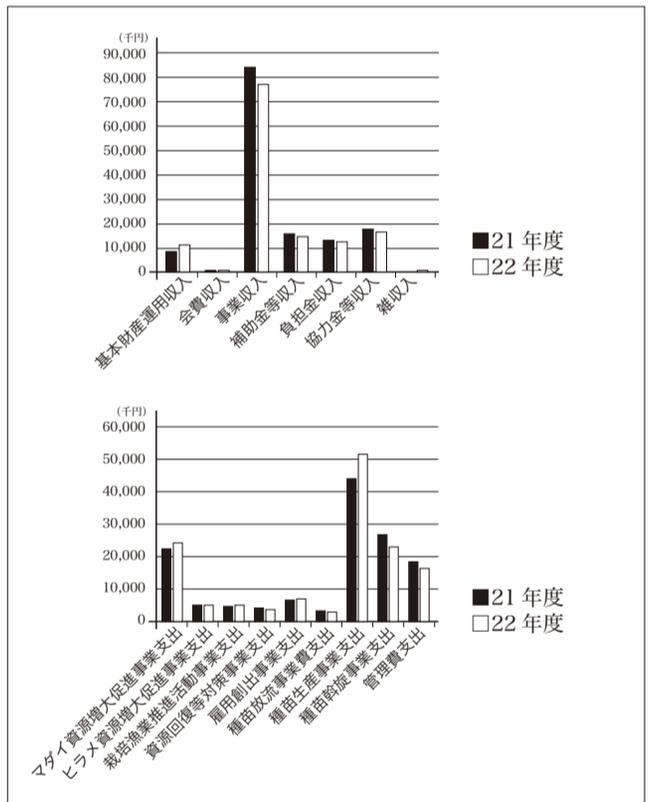


水産物直販にも前向き、出口理事兼参事

出口さんは学業終了後、小田原漁業協同組合に就職し二十二年間組合職員として漁協組織の発展に貢献しました。その後、小田原地域の漁協合併にも尽力し、現在のJF小田原市漁協発足と同時に参事に就任しました。

このように長年にわたる組合職員・役員としての経験から、地域漁業に対する豊富な見識を持ち、卓越した事務処理能力を有する人として評価されています。

また、組合自管定置網で獲れる魚介類のための



メバル漁場整備手法の実験



漁場整備手法の実験—メバル—

賀市長井町漁業協同組合の地先で今年、メバルに標識を付け放流します。マルチビームにより海底地形とメバルの魚群の分布状況を測定し、計量魚探調査や水中ビデオ撮影を併せて行うことにより、マルチビーム調査の精度の検証や調査の精度を向上させる予定です。

メバル種苗には、ダートタグを付け、岩礁とアマモ場にそれぞれ放流し、放流直後の行動を潜水によって観察します。

また、成魚のメバルには腹部

社団法人
全国豊かな海づくり推進協会
〒103-0001
東京都中央区日本橋
小伝馬町 9-6 松村ビル 6F
電話 03-5651-3501
担当者 藤田智也氏

まぐろ千夜一夜 続 艦のオンチャン航海記

第16話 国棄て ⑧

（前号までのあらすじ：Gさんが現地採用された会社では、現地労働者と同じ扱いを受け、日本人から仲間外れになりました。日本人は有色人種や自分より下位の人間には傲慢不遜で、欧米人や上役には追従卑屈であると考えられるようになりました）

特に長い間、単身外地で頑張っていたのは、国に対する誇りや自信のお陰。それが無くなるとは、後楯を失ったようなものなんではないかな。

僕ら、マグロ船乗りは、余ほどのことがない限り、商社マンとか領事館の役人とか、そんな連中とは、会うことはありませぬし、会うても、洩も引つ掛けて貰えんのは当たり前と思っておりますので、腹を立てる謂れもありませんが、Gさんのような人にとっては、そうではなかったのでしょうか。

セイロン人の嫁さん

さて、三十歳の時、任地であったモルヂブ諸島のマールという所で、教師をしていた今の嫁さんと結婚しました。これにも実は面白い話が仰山あるらしいのですが、それは脇へ置いて、話を先に進めますが、このセイロン人の嫁さんを貰ったことが、後にあって日本を棄てる原因になってしまったんです。

ところで、このモルヂブというのは、セイロン島の西約五百四十哩にあり、二百以上の珊瑚の島々からなっており、首都はマール。ココナツ椰子の産地として、セイシェル諸島と同じくらしい有名な所だそうなんです。その近くは、僕らにとっても、ええ漁場で、当時、何度も操業したことがあります。そういえば、島に近付くと、椰子の緑一杯やっただよな気がしませんか。

結婚後ほどなくGさんは、今度は東アフリカ・ケニアのコンパサに在することになったんですが、ここで、内地から出張してくる上役や役人の接待で、不快な思いが頂点に達したらしいです。

そんな或る日、外で用を済ませて事務所に戻ったところ、所長室から談笑する声が聞こえたんです。聞くとおなじみの声で、どうも自分のことが話題になっているらしい。

「あ奴は、どんな心算で黒ンボ女なんぞ女房にしたか知らんが、もう出世の望みはないなあ」と、誰かが言うんです。

「黒ンボ女なら、金さえ出せば幾らでも買えるのに、奴さんもモノ好きな男ですな」

すかさずもう一人が

「アノ方の具合が余ほど良くって、他人にはやらせたくないんで、自分の嫁にしてしまったんじゃないですか」

なお、他にも聞くに堪えないような卑猥な冗談に興じていたのです。

Gさんは、怒りのため体が震え、コントロールが効かなくなりました。

思わず、所長室のドアを蹴り開け、飛び込んだそうです。

そこには、所長と二人の所員が居たのですが、その驚いた様子は、今でも忘れられない、と言っていました。

それでも一人が虚勢を張って

「キ、君、失礼じゃないか。その乱暴な態度は何だ！」

震え声で言ったそうです。

Gさんが、合気道や居合道の有段者であることは、皆知っています。

Gさんには、幾つもの武勇伝があつて、有名だったそうです。臆病者の彼らは、怒髪天を衝くGさんの見事に、恐れ戦いたでしょうよ。構わずにGさんは、所長と二人の所員を、顔が曲がるほど殴り付け、やっつと溜飲を下げ、そのまま事務所を飛び出し、それっきり、ということでした。

後悔は全くなし

家に帰って、女房にその旨を伝えたところ、大層喜んでくれ、彼女の親が居るコンボへひとまず帰り、後の身の振り方を考えましよう、ということになったそうです。

（つづく）

卑劣な会話

太平洋南海域 栽培漁業推進 協議会

ヒラメ資源造成型 栽培漁業展開のために

事業をスタートへ



募金に協力する買い物客

今年三月十一日に発生した東日本大震災は、北海道から神奈川県までの広い地域に被害を与えました。特に岩手、宮城、福島県では未曾有の大被害となりました。亡くなった人や行方不明になっ

神奈川県下の漁協・水産団体などに 東日本大震災被災者への支援の輪広がる

神奈川県でも三月十日に遠洋漁業実習船

「湘南丸」に医薬品などを積んで福島県のいわき市に派遣しました。同月十九日には三崎港から自転車、水、ミルク、米などを積んだ支援船が気仙沼に向かいました。帰航する実習船「青森丸」に託してダイコンやキャベツなどが八戸市に届けられました。



三崎朝市協同組合は三月二十日、気仙沼の漁船が三崎港で水揚げしたメカジキを購入し、解体販売の売上の一部を送ることにしました。

倉漁協・葉山町漁協朝市では売上の一部、小坪漁協はチャリティー即売会の売上の一部を送ることにしました。

東日本大震災で発生した福島原発の事故は、神奈川県にも大きな影響を与えました。水産庁は五月六日、「水産物の放射性物質検査に関する基本方針」を作成、検査を強化することで安全・安心の確保につなげることにしています。

水産庁が放射性物質検査を強化へ 沿岸については神奈川県も範囲に

沿岸では「神奈川県・福島県南部」と「福島県北部以北」に分け、海域を定めて主要水揚げ港で検査を実施しようとしており、このように神奈川県も検査地域に組み込まれています。

すでに神奈川県では県内で生産されたナマコ、マアジ、マサバ、ゴマサバなど水産物の放射能濃度の検査が行われており、四月二十六日の発表だと

「測定値はいずれも食品衛生法上の暫定基準値を下回るもので、食べても健康に影響を与えるものではありません」というものでした。

さいばい漁業って何

の造林と同じであり、磯の手入れとして、かつては浜ごとの共同作業として組

アワビの稚貝は、放流後はカジメの幼体や小型海藻、発芽した海藻などを食べて成長しています。

アワビはどんな所にいてどのように獲っているか
エゾアワビは東北沿岸の比較浅い岩場で漁獲されており、クロアワビ、マガイアワビ、マダカアワビの三種は、水深五十センチメートルから三十メートルに漁場があります。



岩盤の表面のアワビ

マダカアワビは岩盤やアワビの獲り方は基本的に二つの方法があります。

アワビは水深五十センチメートルから三メートルの岩盤の奥や大きな礫の下にいます。

一つは潜水して獲る方法ですが、ヘルメット潜水器を付けて長時間連続してアワビを獲る方法です。暖海域では素潜りで獲る方法があり、息継ぎの長い人で二三分間、アワビやサザエを探すため海中を泳ぎます。

「さいばいニュース」九十一号でお知らせしました太平洋南海域栽培漁業推進協議会の事業がよいよスタートします。

考慮し事業目標のもとに、具体的な種苗生産・放流計画、モニタリング方法及び漁業管理方法について検討を行います。

苗生産を委託し、六〜七月に適地に全長六十mm種苗約五万尾を放流する予定です。

千葉県、神奈川県、静岡県、高知県、大分県、宮崎県の関係六県の行政・水産試験場、漁連等漁業者団体、栽培漁業関係法人の参加のもと広域種資源造成検討会を六月に開催します。

放流効果把握のため、千葉県、宮崎県の主要市場で漁獲物の買上げ等を行い、放流魚の把握及び漁獲量の情報を収集する他、他事業で得られた調査結果も活用してモニタリング結果を検討します。

太平洋南海域では約三百万尾の放流を予定し、栽培漁業協会は県水産技術センターから受精卵を譲り受け、民間業者に種とが求められます。

湘南しらすテーマソング「しらすMY LOVE」

神奈川県しらす船曳網漁業連絡協議会は「湘南しらす」のテーマソング「しらすMY LOVE」のCDを作成して会員の直販所に配布しました。



「しらすMY LOVE」CD

協議会では、「湘南しらす」の美味さや、拡大PRの狙い、体にいい魚料理の紹介、このソングを聴くと、会員の皆さんが元気な声で歌っているように感じます。

このことから、光を海底に届けるために間引きをする必要があります。

マガイアワビは、水深一メートルから七メートルぐらい、マダカアワビは水深五メートルから三十メートルぐらいにいます。



大部分の素潜りは、手にアワビ起しの金具、漁獲物を入れるスカリを持ちウエットスーツを着て行っています。

（つづく）



【アクセス】東京・横浜方面から、徒歩なら京急三崎口駅下車、バスで荒崎行きに乗り「番場」下車。車なら横浜横須賀道路を衣笠ICで降り、三浦縦貫道路に入り料金所を過ぎ、国道134号線を左折しすぐ、「荒崎入口」を右折、道なりに来て長井・新宿港そば。
〒238-0316 横須賀市長井5-34-2 TEL 046-856-3483

朝市・直販所めぐり

自分で獲った魚を活魚・鮮魚・加工して売る

横須賀市・長井港の竜海丸直売所

一本釣り、刺網、潜水などの漁業で自分が漁獲したイカ、サバ、アジ、カツオ、サザエ、アワビ、イセエビなどの魚介類を活魚、鮮魚、沖漬け、干物で販売する「漁師の直売店」が横須賀市長井町に今年三月下旬誕生しました。長井町漁協所属の鈴木直樹さんが経営する「長井港 竜海丸直売所」です。四季折々の長井の地魚を消費者に漁師ならではのリーズナブルな価格で直接販売し「旬の美味しさを堪能してもらいたい」と始めた直売店です。中でも人気なのが活きたまま加工して真空パックしたスルメイカです。また、釣れ上がったイカを船上でタレに漬けた「沖漬け」も絶品と消費者に喜ばれています。シーズンを迎えた潜水漁業ではアワビやサザエを漁獲して水槽に入れて生きたまま販売することになっています。

このほか、ゆでたてを真空パックした生ワカメ、茎ワカメ、乾燥ワカメも販売しており、風味豊かな「地」の水産物が買えると評判です。



漁師の直売所「竜海丸」

計画停電対策

マダイの種苗生産 半月ほど早く開始

沖出しも早めに...

今年度も県下の海に放流するマダイの種苗生産が始まりました。夏になると計画停電が実施されるのではないかと、というところを見こして、例年より半月ほど早く生産に取り掛かりました。

今年度のマダイ種苗生産計画は七十万尾です。夏に予定されている計画停電が実施されると、飼育水槽への給水ができなくなり、マダイの稚魚を育てることが困難になるため、早めに種苗を生産し、小網代湾の生簀への「沖出し」も半月程度早く行う予定です。



これまで協会は毎年百万尾のマダイ種苗を相模湾、東京湾の適地に放流してきました。その結果、県下の魚市場に水揚げされるマダイの四割以上が大きく育って漁獲されたものでした。

しかし、マダイの種苗生産放流事業を行なう補助金などが減少したため、今年度は七十万尾の放流になります。



朝獲れアジに長い列



小柴の「どんぶりや」



美味しい! 穴子井

小柴川・JF横浜市漁協は四月二十二日、柴漁港に同漁協所属船が漁獲する江戸前のアナゴなどを使った食堂「小柴どんぶりや」をプレオープンしました。五月六日にグランドオープンし、以後毎週金曜日から日曜日の午前十一時から午後五時まで営業しています。プレオープン初日、空いているうちにと早めに食べ始めた同漁協の小山紀雄組合長、直後、お客さんが詰めかけ、「組合

長、忙しいのに食べているところではないですよ」と発破をかけられるほど、幸先良いスタートを切りました。

同漁協所属船が漁獲するアナゴやシヤコは江戸前の魚として人気が高く、ほとんどが築地などの消費地市場に出荷されています。このため地元の人たちから「目の前の海で獲れる魚が食べたい」という声が上がっており、それなら「地の魚の美味しさを知ってもらおう」と漁師食堂を開店しました。

メニューは「穴子井」「四色井」「三色井」「かき揚げ井」です。アナゴが主体ですが、「資源が元に戻ったら、シヤコ井も提供したい」と小山組合長は話しています。

小田原市漁協 第三回「アジまつり」開催

東日本大震災支援特別企画として

小田原市漁協は四月二十九日、小田原魚市場で第三回「アジまつり」を開催しました。今回は、東日本大震災被災地支援を兼ねて実施しました。来場者はその日水揚げされた格安のアジを買おうと長い列を作り、大震災被災者支援チャリティ「イシダイすくい」に参加したり、同漁協女性部が無料提供した「カニ汁」に舌鼓を打ち、次々に募金しました。

同漁協の高橋征人組合長は「組合自営の定置網で獲ったアジの買い物などを楽しみ、三月十一日に発生した東日本大震災の被災者応援の募金をお願いします」と主催者あいさつを行いました。

アジは一時間も売れ切れ、同漁協女性部はアジ天ぷら・フライなどをその場で揚げ、神奈川県漁連は海藻類を販売しました。神奈川県水産技術センター相模湾試験場は、定置網の模型を展示し過去の漁時の操業の様子を放映しました。

訂正 平成二十三年三月一日の第九十一号二面の漁業士認定書授与式の記事で「みうら漁協所属の田村繁」とありましたが「みうら漁協所属の田村繁樹」氏の誤りでした。お詫びして訂正します。

編集後記

三月十一日に発生した東日本大震災は、特に岩手県から福島県にかけて大きな被害を与えました。地震による被害もさることながら、大津波が沿岸各地の人々や家を壊滅状態にしてしまいました。また、水産施設も破壊され、業者や水産関係者は他人ごとではないと震災直後から被災地支援の活動を始めています。ただ、復興には数年は掛かるといわれています。支援が息の長いものになることを願ってやみません。